

## 平成 29 年度第 2 回遠軽地域まちづくり会議録（要旨）

- 日 時 平成 29 年 9 月 4 日（月）18 時 30 分～20 時 45 分
- 場 所 遠軽町福祉センター 2 階 2 号会議室
- 出 席 宮崎会長、斉藤（ひ）委員、竹之内委員、平野委員、藤田委員、斉藤（晴）委員、橋口委員
- 欠 席 大平副委員長、生出委員、村上委員
- 町出席者 総務部企画課 佐藤課長、中原主幹
- 会議内容（主な発言を収録。発言内容についても要約している。）

### 1 開会

18：30 開始 佐藤企画課長

### 2 会長あいさつ

（宮崎会長）今日の予定は、この前の宿題とまとめとなる。精力的に御意見をいただき、まとめたい。

### 3 第 1 回の振り返り

資料 1-1、1-2、1-3 に基づき、中原主幹説明。質疑等なし。

会長からの求めで前回欠席の平野委員、竹之内委員から自己紹介。

（平野委員）普段は店（むすびや）にいるが、商工会議所の女性会に所属。昔、拓銀に努めていて、役場から調査などを依頼されるようになり、こうした会議のメンバーなども頼まれるようになってきた。自分の勉強にもしながら、まちづくりのことを考えていきたい。

（竹之内委員）遠軽商工会議所に勤務。皆さんとは道の駅の体験部会などでお会いすることが多い。仕事で関わると逆にまちづくりのことが見えなくなっていると感じている。新しい発想を出そうと思っても固まってきている。まちづくりは本当に難しいと感じる。商工会議所にいながら、何か新しいことができないかと考えている。この会議に参加して職場に生かせればいいと思っている。

### 4 まちづくりへの提言について

中原主幹からまとめの資料に対しての意見、前回不参加の方の意見などをいただいた上で、ポイントを絞って町長への提言をまとめてもらいたい旨説明。全体会議発表時のパワーポイントスライドのイメージとして資料 2 を提示し、提言を 3 つ程度まとめてほしい旨の説明を行った。

（平野委員）民間でやれることじゃなく、町にやってもらいたい方がいいのか。

（中原主幹）民間がやることに対し、町が支援してもらいたいというようなものの方が、この会議に期待しているところ。

（平野委員）うちで言うと瞰望岩の絵柄の入ったタオルを作っているが、町にはお手伝いはしてもらいたいが、なんでも助成金を出すなどになると公に頼りすぎるようになる

ので、民間でやるが、お手伝いしてもらいたいという提言にした方がよい。

(中原主幹) 正にそういうところを期待している。

(平野委員) コスモスは季節、天候に左右されるので、瞰望岩に焦点を当てたらいい。

(斉藤晴委員) はちみつ、アスパラなどお客さんが求めてくる。タオルのことは知らなかった。もっと知らせてほしい。

(藤田委員) 情報は出しているが届いていないことが問題。

(宮崎会長) 前回のまとめ以外で皆さんから意見を求めたい。

(中原主幹) 以外でなくても、出ている意見を深める、具体的にするものでもよい。白滝地域まちづくり会議では、JR 通学の学生のために遠軽駅に机と椅子を置いてほしいという意見が出て、駅に伝えたところ、駅で設置してくれたという例も生まれている。

(宮崎委員) ないようなので、まとめに入っていく。3つぐらいにまとめたい。自分の一押しのもの(ポストイットに書かれた意見)を発言してもらいたい。

(平野委員) 駅に机が置かれたことのように、情報が集まる場所を作ることが重要。4地区がまとまればいいと思う。

(藤田委員) 情報が集まる場、交流する場があると他のことが解決する。そういう意味でラジオ局の意見を出した。

(平野委員) 防災時のラジオ放送は遠軽にはない。

(竹之内委員) 8月の時は九州に行っていたが、鹿児島県曾於(そお)市では、ラジオが全世帯に配られていて、広報に書いているようなことを毎日放送していた。つい聞き入っていた。ラジオ放送はいいと思う。今あるいいものを認めてくれないという現状もある。遠軽はこれだというものがないのではなくて、あるのに認めてくれていない。情報発信することでそういう問題が解決するかもしれない。なくなるときに惜しむことになる。あるものを守っていかないと。

(藤田委員) ラジオ局を運営するとなったら、町民が自由参加できると、意見や情報が集まって、それを声にして発信して、噂になって盛り上がる。

(宮崎会長) 情報の話だが、やっけていても知らないと言われる。届いていないということ。方向として、パンフレットもあるかもしれないが、色んな方法でやらないと届かないということ。

(竹之内委員) 見る、触る、嗅ぐは難しいが、聞くはその場でできる。耳で聞いたことは伝わる。そういった意味でラジオは意味がある。

(宮崎会長) これ(ラジオ局開設)を提言一つに入れるということによいか。

(竹之内委員) 地域資源を見直す機会にもなると思う。幅を広げて行けば、発信ということだけでなく、地域のものも紹介できる。生田原や丸瀬布の町民運動会などホームページで紹介されているが面白い。ああいうことがインターネットでなく、ラジオで流せばいい。

(中原主幹) FM で数キロ電波を飛ばす程度のものならそれほどお金をかけずにできるし、

許可も受けやすい。

(竹之内委員) これから道の駅、町民センターを整備していくが、余計に地元で発信が必要。地元で情報を届けるのは難しい。九州にいるときは、ラジオをかけっぱなしだったが、自然と入ってきた。

(中原主幹) それを誰がやるか。

(竹之内委員) 行政がやる。全世帯にラジオを配って、災害時には生で情報を流せる。

(宮崎会長) とりあえず、これを提案するというで。

(中原主幹) 背景としては色々つながってきた。遠軽ブランドの問題で、いいものがあるのにみんなが気付いていないというのは情報の問題につながっている。町民の交流の場としてもラジオ局があって、自由参加で情報発信ができるという形で期待ができる。

(宮崎会長) 次はどうでしょう。遠軽ブランドについても色々意見が出たがどうか。

(中原主幹) できれば遠軽ブランドの価値を高めるためにこういうことをしたらどうかという話にしてもらいたい。

(宮崎会長) ガンダムは自由に使えるのか。

(平野委員) 著作権会社から許可を得る必要がある。名刺台紙もあるが、浸透していない。

(中原主幹) そういえば、名刺台紙もあらためてPRしていない。

(竹之内) 新しく出たものをブランドと思いがち。今あるものを見て奥を知ってくれば、変わるのではないかと思うが、発信しても見てもらえない。(瀬戸瀬温泉をボランティアで清掃している) お掃除隊なんて、今月はこの日に活動をするなどをもっと発信したらいい。

(平野委員) 言ったらお手伝いしてくれる人はいると思う。皆でやるといいと思う。

(藤田委員) 男の人もグループを作って男湯の更衣室の掃除してくれたらいいという話になった。古いのはいいが、清潔にしないとイケない。

(宮崎会長) 次の提言として皆さんから一つずつ挙げてほしい。

(橋口委員) 眺望岩をアピールするようなものがあると思う。何がいいかはわからないが、遠軽ブランドということで。

(斉藤晴委員) 産業も少子高齢化も大事、子育て支援のための教育や保育や施設。

(藤田委員) 少子高齢化に対応すること。具体的にどうというのはないが。

(平野委員) 私も少子高齢化。町の中での人の移動について何かできないかと思うのだが、どういう風にまとめたらいいかわからない。

(中原主幹) 例えば町内のバス路線がこうなったらいいとか。コミュニティサイクルとか。東京とかだとここで乗ってここで返すというようなものがある。

(平野委員) 白滝から遠軽に通う人とか、そういうものにプラスにできないかと思う。高齢者の方が免許を返すと言っても、通院に困ると言われる。

(竹之内委員) 生田原はバスもあるが、デマンドタクシーがある。なくなってから困ったとなる。しかし、その前に乗っていなかったという状況もあった。

(平野委員) 地域ごとになっているのをなんとかしたい。それを交通で何とかできないかと思う。

(竹之内委員) 民間の保育士の給料が安い。男性が家庭を持って生活が成り立たない。子育て支援で産婦人科が復活しても保育士が足りない。プラス介護。人を大切にしないと、人口が減っていく。人件費を充実させるような、国もやっているが、自治体でもやってもいい。免許取得補助で自分もバスの免許取った。ずっと使えるもの。そういう人づくりは北見市ではできないと聞いた。施設補助などはよくあるが、人件費の補助というのは他ではない。

(平野委員) 条件のいいところには、他から人が来るのではないか。

(竹之内委員) 家賃の補助でもいい。

(平野委員) 空き家活用も考えられる。保育や介護に当たる人を大事にしたい。

(宮崎会長) まちづくりというが、基本は人づくり。

(斉藤ひ委員) 遠軽のいいものが出てきたので、もっと広げたいが、どうしたらお金をかけずにできるかわからない。

(宮崎会長) 情報過多の時代で選ぶ方もわからなくなっている。だいたいまとまってきた。遠軽ブランドと人づくり、少子高齢化のこと。

(中原主幹) これまでの話で具体的だと思ったのが、保育士、介護士の待遇改善の人件費の補助や空き家活用した支援など。面白い。交通対策出たが・・・

(平野委員) 何でも町がやると民業圧迫になってしまうが、業者がボランティアではなく、ちょっとだけいい思いができるような形でできるといい。貸家も不動産を入れながら、安くなど。

(中原主幹) 70歳以上の方にのりもの券を交付している。そういうものを広げるというのも考えられる。免許証返納とのひも付も考えられる。あとは、瞰望岩の活用。

(橋口委員) 初めて見た方は、瞰望岩を見て驚く。なんとか利用したい。

(宮崎委員) 街の真ん中にある。

(中原主幹) ジオパークでは、瞰望岩の成り立ち、植物などを絡めて紹介するツアーも試みている。

(斉藤晴委員) クライミングで活用できるといい。

(宮崎会長) 負のイメージもある。

(平野委員) いいところばかりだけでなく、そういうのも売りにしてもいい。

(中原主幹) ラジオが一つ、二つ目をどうするかというところ、少子高齢化対策として保育士・介護士の待遇改善は面白い。

(竹之内委員) 企業説明会で感じたことだが、保育士は学校卒業して保育士になって帰ってくるが、早く結婚して子育てに入ってしまうとサイクルが早い。そういう人がいずれ介護士として復職する人が多い。入口の高校生のところできたら、学校出て2年で帰ってくる。

(平野委員) 看護師もいいのでは。

(竹之内委員) 看護師もいいと思う。給料はいいが、時間がないのが問題。人がいることによって勤務に余裕ができる。

(平野委員) もともと遠軽は病院があつて、この辺では暮らすにはいいところと言われていた。

(竹之内委員) 遠軽はコンパクトにまとまっているという声がある。学校も多い。

(宮崎会長) 遠軽は教育にも力を入れていた。

(竹之内委員) これからは子育てと高齢化がしっかりしなければいけないが、漠然とでなくそこで働く人を数が足りるようにする。待機児童がないように。

(中原主幹) あともう一つぐらいいれるなら、瞰望岩のこと、地域内交通だが、もう一つ具体性がほしいかなという感じ。瞰望岩のロッククライミングとか。

(宮崎会長) 瀬戸瀬温泉は。

(中原主幹) 瀬戸瀬温泉をどうしたらよいか。

(宮崎会長) 例えば町営にするとか。

(平野委員) あそこは民間でやっている。手は入れられないのでは。

(宮崎会長) できる、できないは別として提言してもいい。

(平野委員) 町営とかはあまりよくない。ボランティアのしかたがよくわからない。例えば災害の時も色々用意が必要だったりする。ボランティアとつ掛かりを作って、瀬戸瀬温泉とか、瞰望岩だとか、その中でどうやって売り込もうか考えるというのがよい。今あるものをブランドまで引き上げる活動をする。

(宮崎会長) 観光客が来ても泊るところがない。自分もどこか行ったときに泊まるのは、やはり温泉。丸瀬布も生田原もあるが、全部通過するといつて、滞在するように言ってもサンシャインしかない。やはり温泉だと思う。

(平野委員) 瀬戸瀬温泉も宿泊はできるので、気持ちよく泊まってもらうところまで持っていく。秘湯として今、入って来ている。町でうんぬんではなく、情報として「そういう人たちがいる。そこに協力してほしい。」というのを出す、結局そうなる情報の方に行ってしまう。

(藤田委員) いろんな人が関わってこんなに変わりましたよと出すと、また人が来てくれる。

(平野委員) まずは、(地元)にいる自分たちが関わる。

(中原主幹) まずは、お掃除隊の活動を町の人に知ってもらうようにする。

(平野委員) ルートを作るといろんな人が、自分が思っていないような発想があるかもしれない。地元の人間に地域の資源の再発見してもらうとよい。

(中原主幹) まとめると、一つ目はラジオ局の開設、二つ目は保育士、介護士の待遇改善、三つ目が難しい。

(平野委員) 一つ目は情報発信、2番目は人づくり、少子高齢化。

(中原主幹) 地元の人が地元の魅力を理解するということだが。

(竹之内委員) そこは情報発信のところで深めていきたい。4地域のことで、一番手っ取り早いのは子どものこと。例えば運動会は1本にまとめてやってはどうか。赤白に分けて、子どもが集まると親、おじいちゃん、おばあちゃんも集まる。そういうちょっとした4地域が融合できることが何かないかというもの。合併して12年経って、融合できるものがあるといい。大人どうしはあるので、子どもも。会場も持ち回りにする。

(宮崎会長) 合併して子供会で全町ミニバレー大会も続けている。

(竹之内委員) 情報発信、少子高齢化は、全町の問題だが、遠軽地域まちづくりということで一つあるといい。

(斉藤晴委員) 交通対策

(中原委員) どうやったら乗るかという提言だといいが。

(宮崎会長) 交通でも病院の話でも、高齢者が安心して暮らせるのはインフラがあるから、それがだんだんなくなってきていることが不安。

(中原主幹) インフラ問題は、人口問題と関連している。

(竹之内委員) 費用負担は軽減される措置は他の地域で見られるが、それに従事する人に対して支援しているのは少ない。

(中原主幹) 運動会は具体的だが。

(藤田委員) 一つぐらいみんなで作り上げるものがあるといい。

(斉藤ひ委員) そこで地元の商店がお店出したりしたらいい。

(中原主幹) 全体会議で提案して、白滝の人にどう思うか聞いたらいいいのでは。

(宮崎会長) だいたいまとまったのではないか。

発表者については、協議の結果、平野委員に決定。提言内容については、次の3項目とした。

- ① コミュニティラジオ局の開設
- ② 保育士・介護士の待遇改善（人件費補助など）
- ③ 全町合同の運動会の開催

## 7 平成30年度以降のまちづくり会議のあり方について

(中原主幹) 来年度、まちづくり会議の目的を達成するために、例えば、どこかを視察するとか、講師を呼んでお話を聞くなども考えられる。どういう方法で進めたら意見があれば伺いたい。

(宮崎) 何か意見があれば。

(橋口) 瀬戸瀬温泉に行く。

(斉藤晴) まちづくりは永遠の課題。毎年考えなくてはならない。

(佐藤) 今年度は、各地域で話し合った後に全体会議をやったが、このやり方がいいか、ほかのやり方がいいか。

(平野) 1回ぐらいは全体で集まった方がいい。例えば組み合わせを変えるとか。この間

は生田原と一緒にやったので、今度は丸瀬布となど。遠軽が何でも中心でというイメージ。そうではなくこっちから行くとか。

(竹之内) キララン清里のようなところでやる。お酒飲みながらなど。地域ごとに知ってほしいところがあればそこでやる。

(平野) 何でもこっちに来いと言うから、「遠軽は・・・」となる。地区割りをもう少し。

(中原主幹) そのようなことであれば、今年の全体会議を丸瀬布でやるとか。

(竹之内委員) それを先にやった方がいい。

## 8 その他

特になし

## 9 閉会

20：45 終了